

## 平成21年度第1回秋田市中心市街地活性化協議会議事内容

平成21年8月25日13時30分から、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

### (議事内容)

場 所	秋田商工会議所 7階 ホール80
出席者	委員：16名 オブザーバー：4名
案 件	(1)任期満了に伴う委員の改選について (2)平成20年度事業報告・収支決算(案)について <監査報告> (3)平成21年度事業計画・収支予算(案)について
報 告	(1)秋田市中心市街地活性化基本計画の進捗状況について (2)中心的個別事業の現況について

### 結果報告

渡邊靖彦会長が開会挨拶を行った後、議長となり会議を進行した。

案件(1)「任期満了に伴う委員の改選について」は、事務局より説明をし、委員名簿(案)のとおり委員21名を承認決定した。

続いて、会長の選任については、規約第6条第1項により、渡邊靖彦会頭が再任された。また、副会長は会長の指名により、財団法人秋田市総合振興公社佐藤理事長を選任、監事についても、会長の指名により、秋田市広小路商店街振興組合佐々木理事長、秋田市市勢活性化推進本部松橋本部長を選任し、異議なく承認決定した。

案件(2)「平成20年度事業報告・収支決算(案)」と案件(3)「平成21年度事業計画・収支予算(案)」については、事務局より説明をし、原案通り承認され、今年度は講演会や先進地視察等の事業を実施することにした。

次に、報告(1)「秋田市中心市街地活性化基本計画の進捗状況について」は、秋田市市勢活性化推進本部中川主査、報告(2)「中心的個別事業の現況について」は、秋田市市勢活性化推進本部佐々木副参事、渡部主査より説明を受けた。

その後、意見交換に移り、委員からは次のような意見や質問が出され、秋田市から説明があった。

<質問> 仲小路タウンビークルについて、当初基本計画では、仲小路往復ルートだったが最終的には広小路を通る『巡回Aルート』の提案となっているのはなぜか。

<回答> タウンビークル運行にあたっては、現在の仲小路は一方通行であることと、仲小路振興会からは買物客が楽しみながら歩く道だということから、タウンビークルの運行は好ましくないとの意見が出された。さらに、面的波及効果を得るためにも中心街区ルートに広げた方がベターとの考えである。

しかしながら、この件は、昨年度において、商業者、駐車場事業者、交通事

業者で構成する検討委員会で、実施に向けた可能性の検討を踏まえ、あくまでもたたき台としての提案であり、今年度、関係者との合意形成を図ることになっているものであって決定事項ではない。

どうすれば最も良い形になるのか、今後十分に協議していこうとするものであるということをご理解いただきたい。

< 質問 > 運行の形態と、無料運行となっている財源はどうするのか。

< 回答 > 運行形態は利用者が既存の停留所で自由に乗り降りできるシステムである。無料運行のランニングコストの試算では3,300万円かかるが、新規公共駐車場の管理を民間の事業協同組合へ委託することにより、ここの収益で十分な事業が実施できる。

< 質問 > 現状の厳しい経済情勢の中、事業内容を精査しても、タウンビークルの無料運行はかなり難しいのではないか

< 回答 > 新規公共駐車場の利益を還元する形で運用しようとするものである。収入は少なめに、支出は多めにというスタンスでの試算では十分に実現可能があるという結果がでたものである。

< 質問 > 駐車場からの収益というけれど、実際動き出したらどれだけの収益があるかわからない中、車や人口が減少している現状で収益は期待できないのではないか。この場合、タウンビークルも出来なくなるのではないか。

< 回答 > 不透明感があるとすれば、2～3年様子を見て駐車場の運営が間違いなく余剰金が見込めると判断した時点で、運行を開始するという選択肢もある。

< 質問 > 既存の公共交通機関であるタクシーやバスが走っている中を、無料運行することは弊害があるし社会的にも問題がある。

< 回答 > 既存の民間事業者を圧迫してまでは実施する考えはない。民間のバス会社へ委託するという選択肢もある。

< 質問 > 既存の公共交通とどう折り合いをつけるのか。運行するにあたっては、停留所や道路をどのように使うのか具体的に説明してほしい。

< 回答 > タウンビークルは、エリア内における利便施設と位置づけられる。エリア内を自由に回遊できるような施設として考えている。停留所については、基本的には混乱させないためにも既存の11箇所の使用を考えている。通行区分は、一番手前の商店街側。基本的には一般車両と同じ車線を走ることになる。

< 意見 > 今の停留所は使用できない。既存のバスと無料タウンビークルは違うものだ。

- < 質問 > タウンビークルは実施することを前提ではなく、提案ということで解釈してもよいのか。仲小路は最初、タウンビークルではなく、屋根だったのではないのか。仲小路振興会は降雪や降雨を防ぐための対策をしなくてもいいのか。
- < 回答 > 大屋根延長の問題は大きなポイントになる。大屋根はコスト面で問題。特に、地元負担が厳しいということがあり、その代替案としての駐車場無料システムであり、タウンビークルである。しかしながら、何らかの形で現状の仲小路の環境整備は必要だと考える。
- < 回答：武藤 > 大屋根より融雪路だと再三要望している。予算がないとのことで聞き入れてもらえない。
- < 意見 > 基本計画にある商業施設（7,000 m<sup>2</sup>程度）の規模が、全国的に一番厳しい経営状態である。この事業の全てが駐車場の収益に依存し過ぎている構造になっているので非常に不安を感じている。収益をタウンビークルにつぎ込むのであれば、商業者から駐車料金を安くしてほしいという圧力の方が高くなるのではないか。
- < 意見 > 金融機関の立場から、経済状況を考えても無料タウンビークルには懸念があり既存にバスやタクシーにかなり影響がないとは言えない。無料タウンビークルを検討するのであれば、公共交通業界と話し合いをし両者のすみわけをクリアにできるかがポイントだと思う。前提は、運行を視野に入れるのではなく、話し合いの上で理解を深め進めていくことが大切だと考える。
- < 意見 > 駅前、広小路、中央通りの一方通行が行われてから30数年経っている。中央街区の活性化のために一方通行の見直しについてこの協議会の中かプロジェクト等で検討してみたらどうか。
- < 回答：秋田中央警察署 > 一方通行の件は、県警本部とも相談をしているいろいろな意見があることを伝えておく。
- < 意見 > 買物ポイントだけではなく、バス利用でもポイント還元ができる共通システムの議論があってもいいのではないか
- < 意見 > ICカードの活用や公共交通を含めたシステムの構築を検討してみてはどうか。今後は、必要に応じて適宜に協議会を開催し、基本計画の推進に向けて意見交換をしていくこととし閉会した。

以上